

平成 30 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立中大淀幼稚園

平成 31 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 家庭で大切に育てられ穏やかで人懐っこい子が多いが、言葉で自分の気持ちを表現する経験に乏しく、新しい活動には消極的で環境の変化で不安定になる姿が見られる。園生活の中で就学前教育カリキュラムの「知・徳・体」をバランスよく取り入れた活動を行い、子どもたちが主体的に楽しんで遊ぶ中で自己肯定感を育てる。
- 併設する大淀小学校との幼小連携、大淀保育所が対面にある立地条件を生かした幼保交流、近隣の大淀中学校との交流が本園の特色である。未就園児や地域の人とのかかわりの機会も多い。いろいろな人とふれあう中で周りの人に対する愛情や思いやりの気持ちを育てる。また併設小学校との交流活動を通して、就学への期待感を高める。
- 子育てに対しての保護者の関心は比較的高い地域ではあるが、各家庭様々で入園前の個人差も大きい。一人一人の実態に合わせた指導と、子どもたちの健康な体づくりのための基本的な生活習慣の自立と食育の大切さを啓発する。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「お子さんは幼稚園や家庭・地域などで非常災害が起こった時、自分の身を守る方法を知っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「地域の保育所や中学校と相互に理解を深め、交流活動を工夫している」「幼稚園は地域の様々な人とかかわりの機会を設け、いろいろな年代の人と触れ合うことができているか」「子どもは年度当初にくらべて、進んであいさつをしていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は園の保育内容や取組を分かりやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しんでいますか」「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「子どもは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「お子さんは正しい生活習慣（うがい・手洗い・早寝、早起きなど）が身についていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。
- ・平成32年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は『食育だより』や、食に関する掲示・朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発している」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

学校園の年度目標

- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「お子さんは非常災害時に対する避難の仕方を意識することができますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は地域の様々な人とかかわりの機会を設け、いろいろな年代の人と触れ合うことができますか」「子どもは年度当初にくらべて、進んであいさつをしていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」「地域の保育所や中学校と相互に理解を深め、交流活動を工夫している」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は園の保育内容や取組みを分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しんでますか」「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「子どもは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶことを楽しんでますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「お子さんは自分の体を大切にしようとする意識をもつことができる」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。
- ・平成 30 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は『食育だより』や、食に関する掲示・朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発している」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の園運営全体を通じて、「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」のそれぞれの項目において目標達成することができた。

次年度は更に保育内容の充実を図り、子どもたちがいきいきと園生活を過ごす中で、一人一人がその力を発揮し、保護者の方にはその姿や成長を見ていただきながら、園の教育内容や教師の教育的意図をもった働きかけについて分かりやすく伝えていきたい。

子どもたちの安全を守りながら、園内外の環境を見直し、更に充実した保育が展開できるよう教職員の連携と資質向上に努めたい。

(様式例 2)

大阪市立中大淀幼稚園 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度の保育アンケート調査で、「お子さんは非常災害時に対する避難の仕方を意識することができていますか」の項目について、「そう思う (だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。 平成 30 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は地域の様々な人とのかかわりの機会を設け、いろいろな年代の人と触れ合うことができていますか」「子どもは年度当初に比べて、進んであいさつをしていますか」の項目について、「そう思う (だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。 平成 30 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」「地域の保育所や中学校と相互に理解を深め、交流活動を工夫している」の項目について「そう思う (だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。 平成 30 年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は園の保育内容や取組を分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う (だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で 80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>非常災害時に自分の身を守るための避難の方法を身につけ、命の大切さに気づく保育を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画をたてそれに基づいて訓練を実施する。 年 10 回 併設小学校との合同避難訓練、合同研修を実施する。 年 3 回 親子での避難訓練を実施し、保護者啓発を行う。 年 2 回 	B
<p>取組内容②【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>異年齢交流保育や地域の方とのふれあい、様々な人との関わりを深める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> クラス間での交流活動を実施する。 週 1 回 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人との交流活動を実施する。 ・あいさつに関する取組を実施する。 	<p>年 10 回 学期 1 回</p>	
取組内容③【施策 2、道徳心・社会性の育成】 小学校就学に向けて、なめらかな接続のための幼小連携に努める。		
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流の年間計画を作成し、交流活動を実施する。 ・教職員が小学校教育に理解できるように合同研修や打ち合わせを実施する。 	<p>年 6 回 年 5 回</p>	A
取組内容④【施策 3、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 園の保育内容や取組みを分かりやすく保護者・地域に発信し、園生活の中で育つ子どもの成長を伝え子育て支援につなげる。		
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月クラスだよりを発行する。 ・パワーポイントや写真掲示を行う。 ・ホームページの更新を行う。 	<p>月 1 回 年 5 回 月 1 回</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容① <ul style="list-style-type: none"> ・2月のアンケート調査「お子さんは非常災害時に対する避難の仕方を意識することができていますか」の項目は、肯定的評価が % だった。 ・年間計画に基づいて計画通り月 1 回の避難訓練を行うことができた。また、実施後、職員で話し合いをし、改善点など共通理解をしたうえで次の訓練にいかすことができた。 子どもには訓練後に振り返りを行い「お・は・し・も」の視覚カードを使って指導をしたり、クラスでも絵本や紙芝居を使ったりして指導を行ったことで、避難の仕方について学ぶことができた。 ・9月の「大阪 880 万人訓練」実施予定日に避難訓練を幼小合同で行った。放送を聞き、素早く小学校に避難することや、津波に対する避難の仕方を教職員や子どももあらためて意識する機会となった。 ・10月には小学校で実施された防犯研修に参加し、警察の方から不審者対応について学んだ。研修後は教職員で防犯について話し合ったり、さすまたの場所などを確認したりすることで安全に対する意識をもつことができた。 ・消防サポートセンターによる、消防訓練を実施し、消火器を使った訓練を行った。消火器を置いている場所や使い方を再確認することで、職員も避難に対する意識をもつことができた。 ・訓練時に園内で活動していた保護者には一緒に避難訓練に参加してもらい、訓練の時の子どもの様子や幼稚園での避難の仕方を知ってもらうよい機会となった。また、未就園児 3 歳児子育て支援活動（たんぽぽクラブ）についても園内で保育をしている時は、一緒に訓練に参加し、園全体の職員で子ども達を避難させることの大切さを共通理解することができた。 ・避難訓練の様子をホームページであげたり、手紙を配付したりすることで家庭でも防犯・防災について啓発することができた。 ・一時預かり事業（のびのびルーム）で避難訓練を行ったことで、指導員も避難の仕方を共通理解することができた。 		

取組内容②

- ・2月のアンケート調査「幼稚園は、地域の様々な人とのかかわりの機会を設け、いろいろな年代の方と触れ合うことができているか」の項目は、肯定的評価が %、「お子さんは、年度当初に比べて、進んであいさつをしていますか」が %であった。
- ・クラス間の交流活動は週1回以上行った。年度当初は、5歳児が4歳児を手伝う機会をつくったり、意図的に集会活動を設けたりして、交流することができるようにした。園外保育の際には、一緒に歩く友達に親しみの気持ちが膨らむように事前にペア活動を行った。運動会や生活発表会などでは、互いの演技を見合う機会を設けることで、刺激を受け合い、その後、4歳児は憧れの気持ちを持ち、やってみようとする姿、5歳児は経験を活かして優しく教えてあげる姿につながった。
- ・保育所との交流は1学期に1回（プール交流）、2学期に2回（運動会ごっこ・ふれあい作品展）、3学期に1回（幼保小交流）行った。中学校との交流は、3回（大淀中学校職業体験1回（2日間）・大淀中学校ふれあい交流1回（3日間）・天満中学校ペガサス隊1回）行った。事前に職員同士が打ち合わせを重ね、昨年度の反省を活かしたり、今年度の子どもの実態に合わせて内容を考えたりするなど、共通理解をして活動を進めたことで、子どもたちが安心して交流する姿につながった。打ち合わせの際に、様々な意見交換をする中で、担任同士の資質向上にもつながった。
- ・未就園児3歳児子育て支援活動（たんぽぽクラブ）の子どもたちとも、5歳児を中心に朝の身支度の手伝いをしたり、一緒に歌ったり、体操やふれあい遊びをしたりする機会を通して、親しみの気持ちを深めた。
- ・地域の方との交流として、学期に1回ずつ北区絵本の会の方に絵本の読み聞かせをしていただいたり、運動会で行う盆踊りの指導をしていただいたりした。他にも、年長児が大淀東地区敬老の集いに参加して地域の方に歌を聞いてもらったり、大淀東食事サービスで歌を聞いてもらったりふれあいを楽しんだりする経験をした。地域の方に温かく接していただいた経験を積み重ねることで、すすんで様々な人に関わろうとする姿につながり、自己肯定感がはぐくまれた。未就園児活動「わくわくひろば」や「はぐとこ」とも行き、様々な経験を通して年下の友達にふれあう楽しさを感じた5歳児は、すすんで遊びに誘い、かかわりを楽しむ姿につながった。4歳児も一緒に触れ合う機会を設けることで、年上として自覚が芽生えた。
- ・あいさつに関する取組は、毎学期あいさつ週間を設け、朝正門に立ち、「あいさつ隊」を行った。「あいさつ隊」のたすきをつけることで、役割意識が芽生え、大きな声であいさつをする姿が見られた。1・2学期のあいさつ隊は5歳児のみで行ったが、3学期は4歳児も一緒に行った。5歳児は4歳児にあいさつ隊の仕方を知らせ、4歳児は初めてのあいさつ隊に期待を膨らませ、あいさつ隊として活動することを楽しんだ。

取組内容③

- ・2月のアンケート調査「幼稚園は、遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもつことができるように、小学校の連携活動を工夫していますか」の項目は、肯定的評価が %であった。
- ・小学校との交流は、年間計画に沿って実施し、1学期は4回（6年生の運動会の演技を見せてもらう・七夕のつどい・プール見学・プール交流）、2学期は9回（ダンス交流・大淀フェスティバ

ル・運動会の遊びを見てもらう・音楽会の歌を聴いてもらう・みんなで仲良く顔合わせ・みんなで仲良く・幼小交通安全教室・ふれあい作品展・絵本読み聞かせ交流)、3学期は2回(給食交流・幼児小交流活動)行った。小学生が優しく接してくれたり、活動を見せてくれたりすることで、親しみや憧れの気持ちをもったり、就学への期待や安心感がはぐくまれたりした。行事の内容に合わせて、事前活動(顔合わせ等)を設けることが、安心して当日を迎える姿につながっている。事後の振り返りの時間も大切に、プール交流や給食交流の後にはお礼の絵をかいて届けた。小学生が喜んでくれている姿を見ることで、小学生への親しみや就学への期待がさらに高まった。

- ・交流の前には打ち合わせを行い、昨年度の反省をふまえ、今年度の子どもの実態に合わせて内容を検討し話し合うことで、子どもたちが活動の楽しさを十分に味わったり、小学生への親しみが深まったりする内容となった。事後の反省会は、時間の確保が難しいが、反省を書いて渡すなどして次年度につながるようにした。

取組内容④

- ・2月の保育アンケート調査で、「幼稚園は園の保育内容や取組を分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目は、肯定的評価が %だった。
- ・毎月のクラスだよりは、その月に子どもが頑張ったことや、できたことを担任がわかりやすく伝えることができる機会となった。また、その中で教師のねらいや保育の意図に下線をひいたり、太字にしたりすることで保護者にも幼児期の大切さを知ってもらうことができる機会になった。また、配付するだけではなく、門でクラスだよりを貼り出すことで、保護者も熱心に見られる姿があり、子どもの成長を実感する機会となった。
- ・毎日の降園時の連絡は、その日のクラスの様子を伝え、月末には保育室降園を行い、クラスでの活動を見てもらったり、伝えたりすることで幼稚園教育に対する理解につながった。
- ・学期の終わりには保護者に幼稚園の教育内容を振り返ったパワーポイントを見せ、保育のねらいや意図をわかりやすく伝えることができた。また、教師が実際に使っている保育案を保護者に見せることで、計画的に保育を行っていることも伝えることができた。
- ・小学校のホームページに、日ごろの幼稚園の様子や園行事の子どもの姿を更新したことで、園の保育内容や取組をわかりやすく伝えることができた。また、入園募集や未就園児活動については、適時更新したことで、園の保育内容や取組を分かりやすく伝えることができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・年間計画を見直し、予定に沿って訓練を実施する。訓練後に反省会を行い、改善すべき点を検討し、教職員間で共通理解をする。
- ・小学校の研修に積極的に参加し、教職員間で共通理解をする。
- ・避難訓練の大切さをホームページや手紙などで啓発する。
- ・子どもも保護者も防災や防犯に対する意識を高めることができるような取組を続ける。
- ・親子での訓練を年間計画に取入れ実践する。

取組内容②

- ・異年齢で関わって遊ぶ楽しさを感じることができるよう、意図的に交流の機会を設けたり、環境の工夫に努めたりする。

- ・ 保育所や地域の方との交流は、引き続き事前に打ち合わせを丁寧に行い、様々な人に関わる経験を積み重ね、地域の一員であることを伝えるようにする。
- ・ あいさつ隊の取組を継続して行い、すすんであいさつをすることを習慣づけるようにする。また、あいさつ週間の時だけでなく、日頃からあいさつの大切さを伝えることができるように保育内容を工夫する。

取組内容③

- ・ 年間計画に沿って交流を行い、早めに打ち合わせの日程を決める等して、円滑に連携をとる。子どもの実態に合わせ、無理なく活動できるように計画し、活動をすすめる。

取組内容④

- ・ 園の保育内容を分かりやすく伝えられるように、クラスだよりを引き続き作成する。
- ・ 日々の保育内容や教育内容をわかりやすく発信できるような、ホームページの活用の方法を見直し、実践する。

(様式例2)

大阪市立中大淀幼稚園 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">平成30年度の保育アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しんでいきますか」「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。平成30年度の保育アンケート調査で、「子どもは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶことを楽しんでいきますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。平成30年度の保育アンケート調査で、「お子さんは自分の体を大切にしようとする意識をもつことができる」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。平成30年度の保育アンケート調査で、「幼稚園は『食育だより』や、食に関する掲示・朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発している」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する保護者の割合を全園児で80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4、全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】</p> <p>教職員の資質向上を図り、一人一人の子どもの実態を把握し、子どもの興味・関心にあった保育内容や環境の工夫・充実につなげる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">保育の打ち合わせを実施する。 週1回就学前教育カリキュラムを活用して週案・日案を立案する。 毎日園内研究保育や指導要請を実施する。 年6回	B
<p>取組内容②【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>のびのびと体を動かして遊び、その楽しさを味わう子どもを育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">体を動かす内容を取り入れた集会活動を行う。 年20回体を動かして遊びたくなるような環境の見直しをする。 月1回	B
<p>取組内容③【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>自分の体を大切にしようという気持ちをもつことができるように生活習慣の指導を行</p>	B

う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年間計画を作成し、病気やけがの予防の仕方について保健指導を行う。年 3 回 教職員が病気やけがの予防についての仕方を共通理解する。年 3 回 清潔調べを実施する。月 1 回 保健指導内容をパワーポイントや掲示などで保護者に知らせる。学期 1 回 	

取組内容④【施策 7、健康や体力を保持増進する力の育成】 食べ物に興味関心をもつことができるよう、3色バランスよく食べることの大切さを指導する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 食育だよりを発行する。学期 1 回 朝食チェックシートを配付する。学期 1 回 食育に関する保健指導を行う。年 3 回 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- 2月のアンケート調査「お子さんは、幼稚園に行くことを楽しんでますか」の項目は肯定的な評価が %、「幼稚園の教育内容に満足していますか」の項目は肯定的評価が %であった。
- 毎週1回、クラス担任で保育の打ち合わせを行い来週分の週案を立て、子どもたちの遊びや活動についてなど共通理解を図った。行事前等は、次週の週案について打ち合わせの時間を設けることが難しいこともあったが、日々担任同士で当日・翌日の保育について話をし、それを他教諭に伝達し、共通理解した。日常的に職員間でクラスの様子や子どもの様子について伝え合うようにすることで、教職員全員が一人一人の子どもを理解し、教師の働きかけにつながった。
- 担任それぞれが就学前教育カリキュラムを活用して週末に来週分の週案を立案し、「知」・「徳」・「体」の項目で反省を記入することで1週間の活動を振り返ることができた。自分の保育を見直す機会にもなり、「知」・「徳」・「体」がバランスよく育つように心がけることができた。日案は毎日立案し、ねらいや幼児の活動・配慮・反省を記入することで、次の日の保育に備えることができ日々の活動を振り返ることができた。
- 園内研究保育を1学期に1回・2学期に3回、指導要請を1回行った。就学前教育カリキュラムをいかした保育指導案を作成し、反省・意見交流の時間を設けることで保育の資質向上につながり子どもたちへの次の活動へとつなげることができた。

＜園内研究・指導要請＞

6月22日	A教諭（5歳児）	表現遊び
9月14日	B教諭（4歳児）	表現遊び
9月21日	C養護教諭	睡眠について
11月5日	A教諭（5歳児）	誕生会（10・11月）
12月17日	A教諭（5歳児）	表現遊び
（指導要請）	B教諭（4歳児）	表現遊び
12月20日	B教諭（4歳児）	おたのしみ会

取組内容②

- ・2月のアンケート調査「お子さんは、様々な体験を通して、体を存分に動かして遊ぶことを楽しんでますか」の項目は肯定的な評価が %であった
- ・定期的に集会活動を行い、5歳児・4歳児の交流をもつようにした。ペアを組んでふれあい遊びをしたり、体操をしたりして体を動かして楽しんだ。また、クラスで好きな遊びの時間にCDラジカセやポンポンを用意し、ダンスや体操を楽しむことができるようにしたことで、体を十分に動かして遊ぶ楽しさだけでなく、友達と一緒に遊ぶ楽しさも存分に感じる事ができた。
- ・月1回程度、遊びの環境の見直しを行った。小学校校舎増築工事の為運動場での遊びの場が制限されたが存分に体を動かすことができるよう、クラスごと時間を割り振ってプレイルームを有効活用できるようにした。
- ・2学期には、幼小・幼保交流も増え、「みんなで仲よく」では近隣のグラウンドへ出かけて存分に体を動かして楽しむことができた。幼保交流では、小学校の校庭を使用させていただいてリレー・かけっこなど、十分に体を動かして楽しむことができた。
- ・園庭では、年長児の運動会后憧れの気持ちをもった年少児が一輪車・一本歯下駄・大縄などに興味をもって、「やってみたい」という気持ちが見られた。年長児に教えてもらったり、友達同士刺激を受けながら挑戦を続けたりする姿が見られた。サッカーや鬼ごっこ等十分なスペースがとれない環境ではあったが、遊びの環境を見直すことで年長児・年少児と一緒に遊ぶきっかけにもなった。
- ・運動会の後も、玉入れ・リレー・パラバルーン・ダンスなどの競技や演技を続けて楽しむことができるようにした。生活発表会の後も、劇遊び・生活遊び・楽器遊びを好きな遊びの時間に自由に遊ぶことができるように、保育室に楽器をおいたり、劇遊びの環境を設定したりして、保育につながりをもたせるようにした。

取組内容③

- ・2月のアンケート調査「お子さんは、自分の体を大切にしようとする意識をもつことができますか」の項目は、肯定的評価が %であった。
- ・年度初めに保健指導年間計画を作成し、計画に基づいて保健指導を実施した。年間計画を作成したことで、見直しをもって保健指導を行うことができた。
- ・病気やけがの予防についての保健指導を年間で3回以上行った。1学期、手洗いの仕方やむし歯の予防についての指導を行った。歌や視覚教材を用いての指導だったので、指導後、歌に合わせて手洗いをするなどの子どもの姿が見られた。2学期には、睡眠に関する指導を行った。持ち帰りできる教材を配付して、その後、保護者へのアンケートを実施したことで、家庭への発信、保護者啓発につなげた。3学期には、排泄についての指導や姿勢についての指導を行った。保健指導時に、年長児にはパワーポイントを使用して指導したり、年少児には、視覚物や触れることのできる教材を用いたりするなど年齢やクラスの実態に応じて指導教材を工夫したことで興味関心を高めることにつながった。
- ・職員への共通理解として、夏季休業中に熱中症対策や嘔吐時の対応についての研修を行った。また、感染症対策や年間で起こったけがの発生数や発生状況を周知することで次年度への改善に努めた。実施時期を長期休業中にしたり、職員会議時に設定したりしたことでしっかり話し合う

ことができた。

〈職員研修〉

1回目	熱中症予防・嘔吐時の対応について
2回目	園内での感染症対策
3回目	1年間のまとめ

- ・月1回清潔しらべを実施した。前年度に引き続いて実施日を知らせずに行ったことや、今年度から1回目でハンカチ・ティッシュ・手洗い・うがい・爪切りができた子どもには、ごほうびシールを貼ることができるようにしたことで、ハンカチやティッシュの持参率が上がった。

取組内容④

- ・2月のアンケート調査「幼稚園は『食育だより』や食に関する掲示や朝食チェックシートなどを通して食の大切さを啓発していますか」の項目は肯定的評価が %であった。
- ・学期に1回「食育だより」を配付した。夏野菜について、1学期末に実施した朝食チェックシートの振り返りや併設小学校との給食交流の内容について作成した。
- ・学期に1回、朝食チェックシートを配付・回収した。1週間の朝食の様子や、朝食メニューや工夫していることなどを記入してもらったことで、朝食の摂取状況を把握することができた。
- ・親子栽培で収穫した夏野菜を持ち帰る際に、家庭でどのように調理したり、食べたりしたのかなどをイラストなどで自由に記入できる「やさいカード」を配付し、回収したものを園内に掲示した。
- ・年間で3回、食育に関する保健指導を実施した。3色栄養や、夏野菜についての内容で行った。夏野菜に実際に触れることのできる内容や、担任と連携し3色栄養の揃ったお弁当の製作を保健指導実施後に行った。子どもが自ら考えたり、触れたりすることで興味をもって話を聞く姿が見られた。

次年度の改善点

取組内容①

- ・日々の保育の打ち合わせを行い、連携を行いながらの保育を継続して行う。
- ・就学前教育カリキュラムを活用し、「知」・「徳」・「体」をバランスよく育むことができるよう再度読み直し、理解を深め、よりよい保育実践に努める。
- ・園内研究保育を行い、保育の資質向上につなげるようにする。

取組内容②

- ・子どもの興味・関心を広げることができるような環境作りを考え、体を動かす機会につなげていくことができるよう工夫する。
- ・打ち合わせ時に教職員間で連携をとり環境構成についても話し合い、より体を動かす機会を増やすことができるよう見直しをする。

取組内容③

- ・今後も年間計画に沿って保健指導を行うが、園内の子どもの実態や、地域の感染症の流行状況なども踏まえて時期に合った指導内容にする。

- ・休業中などの時間にゆとりのある時期を活用し、教職員の研修を行う。今後、研修の内容や実施日については、年度初めに年間計画を作成するなど計画性をもって実施する。
- ・今後も清潔しらべを実施していくが、子どもの実態に合わせて実施方法を工夫する。
ハンカチ等を持ってくることはできてきているので、次の段階として手洗い後にハンカチで拭くことや鼻の噛み方の指導など、使い方についての指導を行う。また、子どもたちの清潔について関心をもってもらうために、保護者啓発を行う。

取組内容④

- ・保護者が読んでみようと思うような『食育だより』の内容にする。
- ・今後も引き続き、朝食チェックシートの配付を行なう。朝食チェックシートの結果、ほとんどの子どもが朝食を食べているが、朝食のメニューのバランスが気になる家庭があったので、今後の保健指導や保護者啓発に役立てる。
- ・子どもたちが楽しむことができるような教材作りの研究を行う。偏食や好き嫌い、食事時のマナーなど、気になる子どもがいるので、そのような内容についての指導も行う。
- ・実際に体験することで食事や野菜に興味関心が高まると考えるので、園内の環境を見直し栽培活動を通して季節の野菜の栽培を行ったり、触れることのできる教材を使ったりするなどの工夫をする。